

今年もあとわずかになりました。九州支部も皆様のご理解、ご協力が無事1年を終える事ができそうです。今年の支部としての新しい試みは、4月にSYLE (Servas Youth Language Experience) プロジェクトを九州支部で受入れ、アメリカ人女性 T. H.さんを迎えたことです。7名の会員で1ヶ月ほど受け入れました。Tさんは大学で日本語を学ばれ、今回はそのブラッシュアップのための参加でしたので、日常会話は勿論日本語です。研修のプログラムは、買い物や散歩、家事などを一緒にしながら、日本語で毎日書いてもらった日記をホストがチェックするという内容にしました。ことばのチェックをしながら、Tさんの日本語が日に日に上達していくのがわかり、受け入れ側としてもとても満足のものでした。

もう一つは、8月に中国四国・九州支部の共同で「折り鶴 GIFT プロジェクト」を始めました。広島市の平和公園にある「原爆の子の像」に奉納された折り鶴を広島市から譲り受け、それを外国からのトラベラーにお渡しする取り組みです。支部ではポーランド、韓国、フランスなど数組のトラベラーにホストから「折り鶴」を渡していただきました。

お忙しい年末ですが、お体に気を付けてお過ごしください。来年もよい年でありますように、そしてサーバス九州が益々発展しますよう皆さまのご協力をよろしくお願いします。

サーバス九州支部会報178号(2017年12月号)をお届けします。  
掲載している内容は以下の通りです。

- |                  |                 |
|------------------|-----------------|
| 1. 秋例会が行われました    | 2. トラベラー受け入れ報告  |
| 3. サーバス旅行レポート    | 4. シリーズ世界一周旅行   |
| 5. サーバス九州支部の活動予定 | 6. 日本サーバス国内会議案内 |
| 7. 訃報            | 8. サーバス九州会員情報   |
| 9. サーバス九州からのお知らせ |                 |

## 1. 秋例会が行われました

11月25日～26日に秋例会が山口県の湯田温泉で行われました。九州支部から11名、韓国のテグから1名参加されました。





近隣の名所めぐりでは、常栄寺雪舟の庭、瑠璃光寺五重の塔、龍福寺の素晴らしい紅葉のアーケードを歩き、ザビエル記念聖堂や中原中也記念館を訪れました。親睦会では各自の旅行体験談やホスト体験談などに花が咲き、最後は佐賀の皆さんの楽しいオカリナ演奏でお開きとなりました。

テグからの参加の K. H. さんが秋例会に参加してのレポートを日本語で送っていただきました。

韓国テグ会員 K. H.

サーバスに入ってから初めての体験、皆様のおかげでとても大事な思い出がたくさんできました。心より感謝申し上げます。

初めて会った皆さんなんですが、何だか昔から長いつきあいをしてきたような気がしました。みなさんの穏やかな顔や、やさしい言葉に包まれ、サーバスはこういうものなんだと肌で感じた旅でもあります。これからサーバスの一員として、新しい縁をむすんでいく人々に私もそういう温かい気持ちを伝えていけたらと思います。

今回のサーバス九州のみなさんとの縁が長く続きますように.....

## 2. トラベラー受け入れ報告

### サーバス受入れ報告

宮崎県会員 H. T.

- ① 氏名 A. K. (男 74歳) E. K. (女 61歳)
- ② 国名 ポーランド
- ③ 受入期間 2017年9月8日～9月10日
- ④ コメント

ポーランドの古都クラコフから、私と同世代の夫妻を受け入れました。事前に送られてきたLOIの写真では、気難しい印象を持っていたのですが、話し好きの実に陽気で愉快的なカップルでした。夕方、宮崎駅に迎えに行ったその足で、平和台公園に案内しました。観光案内パンフレットを見ていて、ここに行きたかったんだと言って喜んでくれました。A.さんは日本語が大変流暢でした。ワルシャワ大学で日本語を学び、日本文化や習慣、歴史、言語などに幅広い知識を持っていました。2人とも大学で英語を教えていました。A.さんは、かつてのポーランド労働運動の指導者であり、後に大統領となったワレサ氏の通訳も務めたそうです。その時の写真があると言っていました。

2日目は日南海岸を案内しました。「鬼の洗濯岩」とポーランドにはない自然亜熱帯樹林が興味深かったようです。青島神社では結婚予定の男女の前取り写真の場に遭遇しました。女性の伝統的な角隠しの衣装を初めて見て、一緒に写真を撮り、角隠しの意味などいろいろと話しかけていました。双方にとっていい記念になったようです。カフェで一服の後、鶴戸神宮を観光、大きな洞窟の中にある神社に感嘆していました。

私の調理したアサリのワイン蒸し、魚のムニエル、鶏料理やみそ汁を美味しいと完食してくれました。ポーランドは海岸線が短く、しかも海まで遠いという地理的關係で魚をあまり食べない人が多いようですが、夫妻は魚が好みとのことでした。タクアンが好きなので、買って帰ると言うのにはちょっと驚きでした。瞬く間のステイでしたが、楽しく時間を過ごし、クラコフでの再会を約束しました。

### 3. サーバス旅行レポート

(1) ベルリン、北歐の旅 2017年8月4日～20日

その2

福岡県会員 O.K.

#### 3) スウェーデン；ヨーテボリ

最初のホスト宅は仕事で来日経験のあるご夫婦と姉妹（13歳と7歳）、猫という家族構成でした。料理好きのご主人がサーモン料理、お嬢さん方がデザートを作ってください、食後にはみんなでゲームをして盛り上がりました。お姉さんにはお気に入りのラクリッツショップや次のホスト邸への道案内もしていただき、子供たちもホストの一員として立派に役目を果たしておられ感心しました。この家で初めてラクリッツを口にしました。評判通り独特で馴染みの薄い味ですが、美味しくいただきました。後にガイドブックで知ったのですが、この日いただいたのは高級ラクリッツで、最初の出会いが良かった私はこの後も様々な質のラクリッツを口にしてみて、私には手に負えない「凄い」味もあることを知りました。同じ日本人でも、納豆、チーズ、じんだ煮、くさやなど好みの分かれる食品は多く、味覚の発達に対する環境の影響を感じます。2日目はフリーマーケット、調理器具店、ヨーテボリ美術館へ行った後、スーパーマーケットで買い出しして、手巻き寿司と味噌汁を作りました。来日した時に1番好きだったのは「しゃぶしゃぶ」とのことでした。

次のホスト宅はヨーテボリが一望できる眺望の良いおしゃれなマンションでした。昼食は消防署を改築したフードコートのベジタリアンコーナーに行きました。食材、調理法が多彩でどれも美味しく勉強にもなりましたが、つい食べ過ぎました。その後自転車で市街を案内していただき、気候も良く爽快でした。シェアバイクのシステム、移民の抗議集会、都市計画を示す縮尺模型のある展示会館、高級ラクリッツショップなど生活者ならではのご紹介で印象深く拝見しました。夜は伝統的なスウェーデン料理を料理上手なご主人が作ってください感謝しました。翌日は、スウェーデン最大の植物園まで奥様に連れられ、途中にある歴史的建築物や名所なども説明してくださいました。夕食には日本での盆栽研修旅行から帰国直後のご友人も来られ、私たちが作った天ぷら、手巻き寿司、味噌汁などをいただきました。ヨーテボリに桜の木があることから「花見」が行われているとのこと、hanamiと日本語で認識されており、奥様の着物姿の写真も拝見しました。

#### 4) フィンランド；ヘルシンキ

初日はカンピ礼拝堂、国立現代美術館、かもめ食堂を回ってホテルに一泊。翌朝シベリウス公園に寄った後、8:40発のバスでムーミンワールドへ向かいました。バス降車後は標識を頼り

に思っていました。看板はなく閑静な住宅街を抜けて辿り着きました。ムーミンワールドでは、子供のころ夢中だったキャラクターに会えた感動もさるものながら、1番心に刻まれたのは無邪気な子供たちの笑顔とたまらなく愛らしい仕草でした。

15:20 発 18:05 着のバスでヘルシンキに戻り、アカデミー書店、カフェ・アアルトで休憩してから、アテネウム美術館、ヘルシンキ大聖堂へ行きました。アテネウム美術館では幸運なことにアアルト展が開催されていて、その作品に魅了されました。アカデミー書店には確かにキノコの本がたくさんあり、帰宅してホストにそのことを告げると、友人が出版したという専門書をみせてくださり説明を受けました。

翌日はマリメッコ本社にホストが案内してくださいました。日本人客が大勢いて人気うかがえます。社員食堂は評判通りお洒落で、物価の高いヘルシンキでは破格ともいえる価格で美味しい料理をいただくことができました。テフタヌーン・アラビアのアウトレットは縮小されていましたが、フィンランド独立100周年記念のお皿の先行販売など品揃えが秀逸で、見応えがあり堪能しました。大岩をくりぬいた中に作ったテンペリアウキオ教会は金曜日は20:00迄開いており、無料でした。今回訪れた都市の美術館は曜日によって20:00頃まで開館されているところが多く、日本でも多少はあるものの、もっとこの制度が普及してくれるように願います。

最終日の朝ホストの勧めで近所のヨットハーバーまで続く遊歩道を散歩しました。草花が咲き乱れ、小川や水際で水鳥の群れが遊び、ランニングやベビーカーをひく家族の姿など心なみしました。想像以上に素晴らしくこれだけでもとても満足したのですが、空港に行く前にデザイン美術館にも寄って良かったです。フィンランドを代表する作品と共に、特別展にはリサイクルで創造された作品が展示され、その色彩の美しさは圧巻でした。空港には身体を横にできる椅子が容易され、北欧を去る時になって改めて、空間や人々のゆとりを思い起こしながら飛行機を待ちました。

サーバスでお世話になった方々は勿論ですが、様々な場所で一期一会の出会いもあり、人々の優しさに触れ、感動の毎日でした。心より感謝申し上げます。

## (2) ドイツ「ベルリン」(8月5日～7日)とスウェーデン「ヨーテボリ」 (8月12日～15日)のサーバスメンバーを訪ねて その2

福岡県会員 T. N.

日本からの友人 O. K.さんはお世話になったお宅でお礼に日本食を作って感謝したいと日本の食材や調味料をたくさん持参してくださいました。

お寿司の素があるから、ということでお子さんでも自分で好きなものをのせて食べることができる手巻き寿司を作ることにしました。

粘り気のあるお米がご自宅になくパラパラとこぼれてしまう寿司飯ではありましたがみなさん喜んで食べてくれました。お寿司にもいろんなタイプがあることをご存知の方はまだまだ少なくて興味津々、楽しんでいただけましたようです。

意外に好評だったのが焼き海苔にスライスゴーダチーズをのせて、その上に種を取って薄くスライスしたキュウリをのせてサンドイッチしたお米なしの手巻きでした。

日本に帰国してニュースを見ていたら大手回転寿司チェーンが最近の糖質制限ブームに対応してお米なしのお寿司を販売することになったと報道されていましたが時代の先取り(^^)vだったのでしょうか。

O. K.さんがトランクにたくさんの食材を詰めて時には石畳でトランクがヒックリ返りそうに

なりながらのご苦勞のおかげでホストの方々とも食を通じてより親密になれたと思います。

ヨーテボリの街で2件目のホストはお仕事をリアイデアしてゆったりと日常生活を楽しんでいらっしゃる Bさんと大学講師をされている Oさんご夫妻です。ヨーテボリ中央駅から市電で10分、徒歩3分と大学が近くある文教地区にお住まいでした。最初のホストの長女の Nちゃんが迷いながら道案内して連れて行ってくれました。

訪問1日目はお昼前にご自宅に到着すると「今日は私たちがヨーテボリの街の案内して明日は自由にお過ごしくださいね」とまずは古い消防署を改築してたくさんのレストランが入っているスペースでランチをご一緒に。その後レンタサイクルでヨーテボリ市中を自由自在に走りながらのご案内でした。自転車に乗るのは数十年ぶり、石畳の振動に海からの向かい風を受けながら街を横切るといふ新鮮な体験でした。そのおかげで街のレイアウトがよく分かりヨーテボリの街がより身近に感じられました。

初日の夜はスウェーデンで普段食べられているニシンの酢漬けやチーズなどどれもシンプルで素材の味を楽しむ美味しいお食事をゆっくりと会話を楽しみながらキャンドルの灯りでの心寛ぐおもてなしに幸せな気持ちにさせていただきました。

ご主人の Oさんはデンマーク、コペンハーゲンのご出身だそうで今は Bさんとスウェーデンに暮らし、サーバスの会員になったのは20歳の時、すでに38年間メンバーだそうです。デンマークはサーバス発祥の地と聞いていたので色々伺いたいと思いつつも別の話に花が咲き残念ながらそこまで到達しませんでした。

温かいおもてなしを受けたのでここでも2日目は日本食でお返しを、と O.K.さんが活躍してくださりベジタリアンの Bさんも楽しめる野菜の天プラディナーでした。Bさんの植物好きの50年来の友人が最近日本に2週間旅行に行ってきたのでご招待しようということになりチャーミングなマダムも同席の楽しいひと時をすごすことができました。

これまで北欧4か国の中のスウェーデンの位置関係も正確ではなかったような私ですがサーバスメンバーを訪ねたことでとても近くに感じられ数々の情景や空気感を思い出すことができるのは本当に嬉しいことです。

最後の朝、朝食の時に Bさんが「一緒に食事をすると仲良くなれる、だからサーバスは素晴らしい考えだ、と思っているけれど世界の平和はなかなか難しいわね」と呟かれたのが印象に残りました。せめてご縁をいただいた方との細く長い交流がより豊かな世界に繋がっていけば素敵だなあと今回もサーバス旅行をさせていただいて感じました。

### (3) サーバスステイと北欧の旅 2017年8月13日～8月24日 その2

長崎県会員 T.Y.

コペンハーゲンでは、滞在時間がとても短かったですが、ハンブルグへ向かう列車がなんと大きなフェリーで海を渡ったことにはかなり驚きました！ 列車を出て船内に行くと、大きな売店やレストランなどがあり、よくこんな重いものが浮くな～と感心しきりでした。もちろん、

飛行機も、よくこんなにたくさん人をのせて飛ぶな〜といつも思うのですが・・・。

ハンブルグでは、Cさんが宿泊予定のホテルで出迎えてくれました。早速、彼女の案内で、歩いてハンブルグの街を見学。実は、英語の教科書にこの場所の名前が出てくるカモメの物語があるので、ぜひ、訪れて写真をとって生徒に見せたいと思っていましたので、かなりワクワクしながら回りました。新しくできたばかりのオペラハウスやCさんおすすめのアイスクリームがとてもおいしかったです。彼女は、私と仕事も年齢もほとんど変わらないにもかかわらず、かなりたくましく元気いっぱい責任のある仕事もしっかり行い、驚かされました。

翌日、ベルリン中央駅に到着。そこで列車を乗り替え、次のステイ先のZehlendorfの駅で列車を降り、プラットホームを歩き始めるとニコニコしながら近づいてくる男性が・・・。ホストのDさんでした。家に着くとパートナーのEさんと17歳のR君が出迎えてくれました。Dさんは、体育と音楽の先生で、Eさんは、メキシコの出身の音楽家、そしてR君はドイツ語、スペイン語、英語、フランス語が話せる高校生。英語での話も流暢でまたまたびっくり。夕方は、Eさんが指導するコーラス隊の方々の練習に参加し、美しいハーモニーに感動。さらに、家に帰って夕食の後は、Eさんが世界中の子守唄を集めているということで、日本の子守歌を歌って欲しいと言われ、「五木の子守唄」を歌いました。すると歌詞を英語文字で書いて欲しいと言われ、スマホで確認しながら書き写して歌っていると、Dさんがギターを持ち出してきて伴奏。R君も含めて、みんなで何回も歌いました。素敵な時間でした。

次の日は、Dさんの案内でベルリンを見学。ベルリンについてももう少し、しっかり調べてくべきだったと反省。Dさんはとても穏やかな人で、歩きながらドイツの学校のことなどいろいろ聞くことができ、空港近くまで、ずっと一緒に来てくれました。

ベルリン空港から空路エストニアへ。世界文化遺産の首都タリンの旧市街は、800年前の中世の街並みが残る美しい古都で、ゆっくり回って、買い物も楽しみました。そして、翌日フェリーでヘルシンキに戻ってきました。ヘルシンキでは、急遽、サーバスのOさんを訪ねることになり、電車、バスを乗り継いで自宅にお邪魔しました。Oさんは写真家でもあるアーティスト。夕食をごちそうになりながら、関心があったフィンランドの教育やこどもたちの長期休みについてお話を聞きました。食後は、娘さん、友人の方と一緒に近所の自然豊かなヘルシンキの林を散策。散歩の途中、採ってもらって食べたラズベリーがとてもおいしかったです。Oさんや娘さんの流暢な英語にも感心しました。

この旅を終えて考えたこと。

6か国で、どこでも見られた石畳。ややもすると不便に感じてしまいましたが、昔からのものを大事にしている雰囲気。語学の大切さとコンピューターをスムーズに使いこなしている様。大きなリュックを背負って旅するたくさんの若者。ゆっくりと休暇を取ってしっかり、学ぶことができ、働くことができる国のシステム。ほぼどこでもスムーズに英語を話す人々。この旅行では、とにかくよく歩きました。「旅＝歩くこと」と実感。さらに、旅では、体力と語学力が必要だと痛感し、生徒たちに目指してほしいゴールが少し見えてきたような気がしましたし、自分自身もこれからもっと頑張りたいことがはっきりしてきました。その土地の人と話すことで、その国がより理解でき、人として生きることは、同じなのだと実感させられたり、また、異なる習慣の中から学んだり、取り入れたりすることができることなどいろいろ考えさせられたり、これまでの「旅行」とは違う、「旅」の雰囲気を味わうことができました。

## 4. シリーズ 世界一周旅行

### イタリア フィレンツェ～ベニス

熊本県会員 T.A.

フィレンツェからバスで 1 時間ほどのトスカーナ地方にあるユースホテルに宿泊 (<https://www.hihostels.com/ja/hostels/florence-ostello-del-chianti#location>)。周りに広大なオリーブ畑やブドウ畑が続くのんびりとした風景の町だった。ここに 2 泊。今まで慌しく動き回っていたので、のんびり過ごすことにした。ユースホテルだったが、私達だけで部屋が使えたこと、近くの町でワインの飲み比べをしたり、髪を切ったり、眺めのいいレストランで生パスタを食べたり、そうしたことで少し友人の旅へのストレスが解消されたようだった。

トスカーナの小さな町を離れた後は、フィレンツェに戻ってホテルに 2 泊。ココではお互いにストレスを溜めないために別行動とし、夕食時に落ち合うことにした。美術鑑賞が好きな私は 3 日間フィレンツェの美術館めぐり+バス無料券が着いている「フィレンツェパス」(50 ユーロ)なるものを購入し、一日に 4～5 件の美術館を回った。このチケットのお陰で沢山の人が並ぶ UFFIZI 美術館も脇から優先的に入ることが出来て、悠々「ミロのヴィーナス」や「受胎告知」などを観ることが出来た。フィレンツェの街は本当に美しく、見所も多いのでココだけで数日過ごせそうだった。夜には友人と落ち合ってレストランでワインを飲みながら、その日の出来事を報告し合った。私と趣味の違う友人は、免税店や香りの良いバərb 製品の店などを回って過ごしたようだった。

フィレンツェのあとは列車で夕方にベニスへ到着。ベニスは海上に浮かぶ町のため、フィレンツェに比べると蒸し暑く感じた。駅前の船着場には沢山のボートが行き交い、活気のある風景だった。ベニス到着早々、観光をしたい私たちだったが、あいにくの貧乏旅行のため、その日はベニスからバスで 20 分ほどの安宿に移動し翌日に観光することにした。

翌日、またバスに乗ってベニスへ移動。ボートに乗ってサンマルコ広場へ。狭い水路にゴンドラが行き交い、たまにイタリア語の歌声が聞こえてくる。狭い小道の両脇にはベネチアグラスや絵画などの土産物屋が並び、レストランが立ち並ぶ。昼食に入ったレストランでは、ゴンドラの船乗りが大きな声で話し、笑って陽気は雰囲気だった。

ベニスの家々は水路の上に隙間なく建物が建っており、家のドアから階段を下って直接ボートに乗れるような構造になっていた。水に面しているため、壁にはカビが生えているところもあるが、これだけの数の建物が並んでいるのは、昔は大変に栄え、過ごしやすい町だったのか？しかし、少しメイン通りを離れると、もう誰も住んでいなそうな建物も多かった。物価も高そうだし、今となってはそれほど過ごしやすい家ではなくなったのか？

初めて来た街だったが、橋の上から行き交うボートやゴンドラを眺めていると、絵画で観たように、昔は沢山に着飾った貴婦人や貴族達が夜な夜なパーティーに繰り出し、街や港では商人たちが大声で声を掛け合うようなそんな街だったのかな～と思った。

ベニスのあとは夜行列車でドイツのミュンヘンへ移動。イタリアは 9 日間過ごしたが、建物、美術、風景に魅了され、また行きたい国の一つになった。

## 5. サーバス九州支部の活動予定

(1) 九州支部会議の期日が決まりました。予定に入れておいてください。

期 日： 2018年4月21日（土）  
会 議： 14：00～16：00 親睦会：17：00～19：00  
開催地： 佐賀県  
会議、親睦会の会場は後日メールにてお知らせします。

## （2）インドネシア訪問

確定ではありませんが、インドネシア訪問（サーバス訪問）の企画が進んでいます。具体化したら改めてお知らせいたします。

期日は2018年6月5日（月）から4～5日または5～6日程度  
訪問地はサーバス会員と交流できるバリ島、東ジャワ（スラバヤ）、中央ジャワ（アムバラワ）

秋例会で外国訪問の話が出て、企画が検討されています。興味をもたれた方はご一報ください。企画者はO, T.さんです。

## 6. 日本サーバス国内会議案内

M

期 日： 2018年3月17日（土）～18日（日）  
開催地： 東京都新宿区市谷本村町10-5 JICA市ヶ谷ビル内  
参加希望の方は支部長までお知らせください。

## 7. 訃報

九州サーバスの活動に大きな貢献をしていただいたお二人の方の訃報が届きました。

お一人は1970年代から1990年代まで、長きにわたってサーバス九州支部長をされていたI.M.さん（福岡県）。日本サーバス草創期に九州の地にサーバスを根付かせるためにご尽力いただいた方とお聞きしています。

もう一人は元韓国サーバス会長のE.J.さん。長年日本サーバスとの大きな架け橋の役目をしてくださいました。特にサーバス九州は韓国旅行や、例会への韓国会員の方々の参加等の交流等を行ってきましたが、それらがスムーズにできたのはウムさんのお骨折りがあったからだと思いません。

お二方のご冥福を心よりお祈りします。  
当時をご存じのN会員にお二方それぞれを偲んで思い出を書いていただきました。

### I.M.さんを偲んで

佐賀県会員 N.M.

I.M.さんは平成5年春、大分のY.T.さんに引き継ぐまでサーバス九州の支部長を務められた大先輩です。

そのIさんがここ数年体調を崩され、最近はかなり弱っておられると聞いて、8月27日（日）Y.H.さんと一緒に太宰府市のご自宅を訪ねました。ちょうど昼頃でしたが、その時も椅子から立ち上がることもままならない状態でしたが機嫌はすこぶる良くて、1時間ほどでしたが懐かしい



話に花が咲きました。ところが、それから約10日後の9月9日(土)夜、帰らぬ人となられました。79歳でした。

Iさんは長崎県で長く高校教師としてお務めの後、国立久留米高専の英語教師として栄転され、定年で退職されました。その間ならびに退職後もサーバス活動に熱心で、海外に出かけるばかりでなく、これまでに500名以上のビジターを受け入れておられます。優しく丁寧で親切なお人柄で誰からも愛されていました。

今から30年以上も前の事になりますが、スリランカの貧しい青年B.K.さんを受け入れ親切にお世話されていました。その青年はやがて駐フィリピン大使となり、数年前Iさんご夫妻を公邸に招き恩返しをされました。

Iさんが地上の旅を終え天国に旅立たれてから2ヶ月になります。今ごろサーバス九州の初代支部長であったE.K.さんやY.T.さんなどと昔話に興じておられることでしょう。ご冥福をお祈りいたします。

## 故 E. J.さんのこと

Eさんとは第1回目の日韓交流会の時に知り合い、それ以来30年以上に亘って お付き合いをしてきました。小学校3年生まで日本語による教育を受けていた

Eさんは日本語がお上手で、私たちは年齢が同じということもあり、共通の話題が多くありました。お仕事は自動車会社の代理店でしたが、仕事は社員に任せっきりで世界中を駆け回っていました。そして韓国サーバスの代表者にふさわしく世界中からやって来るトラベラーを年間を通して受け入れていました。

世界各地で開かれるサーバスの集まりや会議にも積極的に参加し、ウムさんは国際的にもその存在感で知られていました。私はEさんの招待で何度韓国を訪ねたか分かりません。行く度に新しい観光地や寺院に連れて行ってもらいましたので、韓国のことがずいぶんわかるようになりました。

我が家にも何度も来られましたが、一人ではなくいつも数人のサーバス 会員を連れて見えるので、狭い我が家にどうやって泊まって頂くかに苦心しました。

Eさんは日本の演歌が好きでしたが軍歌も大変好きでした。病院に入院しておられた時に「軍歌を聞きたい。」と言われましたのでCDを送りました。病室でそれをよく聞いて おられたそうです。思い出すとキリがありません。忙しい地上での旅を終え、今は敬愛してやまなかったお父上と再会され、天上で楽しく語らっていらっしゃることでしょう。

来年秋サーバス国際会議が開かれますが、どうぞそれがうまく行くように見守って下さい。

## 8. サーバス九州会員情報

九州支部会員数 49 家族(福岡12名、佐賀6名、長崎9名、熊本3名、  
大分11名、 宮崎6名、鹿児島2名)

## 9. サーバス九州からのお知らせ

### (1) レポートについて

サーバス旅行や、トラベラー受け入れをされた場合はその時の様子をぜひレポート（簡単な一口コメントでも結構です）をお送りくださるようお願いします。会報に掲載させていただきます。

### (2) トラベラーを受け入れた場合は

- ①トラベラーの国名、
- ②トラベラーの名前、
- ③ステイされた人数、
- ④受け入れ期間：○年○月○日～○年○月○日、○泊○日、
- ⑤一言感想

をメモしておいてください。年度末に行われる日本サーバスへの報告に必要です。受け入れられたらすぐ支部長宛てにメールをくださっても構いません。

### (3) 2018年度の会費納入のお願い

年会費 3,000 円の納入をお願いします。2018年1月末までにお支払いいただきますようお願いします。2017年度分をまだお済みでない方（2名）は、会計の処理上お早くお支払いいただくようお願い致します。

郵便口座をお持ちでしたら振り込み手数料無しで送金できます。